

関 係 各 位

愛知県農業総合試験場長

病害虫発生予察情報について（送付）

このことについて、下記のとおり発表しましたので、参考にしてください。

記

令和 8 年度病害虫発生予報第 6 号（9 月）
令和 8 年度病害虫発生予察注意報第 7 号
令和 8 年度病害虫発生予察注意報第 8 号

担 当 環境基盤研究部病害虫防除室
電 話 0561-41-9513
ファックス 0561-63-7820

令和 8 年度病害虫発生予報第 6 号（9 月）

令和 8 年 9 月 2 日
愛 知 県

普通作物

・ 予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報へ の影響
イネ	いもち病 (穂いもち)	やや少ない	県全域	8 月下旬の早期栽培での発生 量はやや少ない	－
				中生の主要品種は穂いもちに強い	－
				9 月の降水量はほぼ平年並	±
	紋枯病	やや少ない	県全域	8 月下旬の発生量は少ない 9 月の降水量はほぼ平年並	－ ±
	トビイロウンカ	平年並	県全域	8 月下旬の発生量は平年並	±
	ツマグロヨコバイ	少ない	県全域	8 月下旬の発生量は少ない	－
	コブノメイガ	平年並	県全域	8 月下旬の発生量は平年並	±
	フタオビコヤガ	平年並	県全域	8 月下旬の発生量は平年並	±

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
イネ	斑点米カメムシ類	平年並	県全域	8月下旬の本田での発生量は少ない 8月下旬の水田畦畔でのカスミカメ類を除くカメムシ類の発生量は平年並 予察灯におけるミナミアオカメムシの誘殺数が多い	－ ± ＋
ダイズ	ハスモンヨトウ	やや多い	県全域	8月下旬の発生量は並 フェロモントラップにおける誘殺数は平年並 9月の気温は高い	± ± ＋
	オオタバコガ	平年並	県全域	8月下旬の発生量はやや少ない 9月の気温は高い	－ ＋
	吸実性カメムシ類	多い	県全域	8月下旬の発生量はやや多い 予察灯におけるミナミアオカメムシの誘殺数が多い	＋ ＋

・防除対策

〔ダイズ・ハスモンヨトウ〕

本日発表の「ハスモンヨトウ情報第2号（ダイズ）」を参照してください。

〔ダイズ・吸実性カメムシ類〕

本日発表の「令和8年度病害虫発生予察注意報第7号」を参照してください。

・留意事項

紋枯病について、8月下旬の発生量は少ない状況でしたが、9月の気温は高いと予想されており、発生に好適な条件となるおそれがあるため、ほ場内での発生状況に注意しましょう。

8月下旬の本田すくい取り調査における斑点米カメムシ類の発生量は少ない状況でしたが、畦畔雑草のすくい取り調査におけるカスミカメ類を除くカメムシ類の発生量は平年並、予察灯におけるミナミアオカメムシの誘殺数が多い～やや多い状況であり、注意が必要です。防除対策は8月3日発表の「斑点米カメムシ類情報第3号」を参照してください。

ダイズについて、県内に設置したトラップにおけるシロイチモジヨトウの誘殺数は平年並ですが、8月第3半旬にピークを迎え、今後ほ場において幼虫が増える可能性があります。注意が必要です。防除対策は7月3日発表の「令和8年度病害虫発生予察注意報第5号（シロイチモジヨトウ）」を参照してください。

果樹

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ウンシュウミカン	黒点病	やや少ない	県全域	8月下旬の発生量はやや少ない 9月の降水量はほぼ平年並	－ ±
	ミカンハダニ	やや多い	県全域	8月下旬の発生量は平年並 9月の気温は高い	± ＋
	チャノキイロ アザミウマ	やや少ない	県全域	8月下旬のイヌマキにおける発生量は平年並 8月下旬の被害果率は少ない 黄色粘着トラップにおける誘殺数は平年並	± － ±
モモ	せん孔細菌病	平年並	県全域	8月下旬の発生量は平年並 9月の降水量はほぼ平年並	± ±
	モモハモグリガ	平年並	県全域	8月下旬の発生量は平年並 フェロモントラップにおける誘殺数は平年並	± ±
ブドウ	べと病	多い	県全域	8月下旬の発生量は多い 9月の降水量はほぼ平年並	＋ ±
カキ	炭疽病	平年並	県全域	8月下旬の発生量は平年並 9月の降水量はほぼ平年並	± ±
	うどんこ病	平年並	県全域	8月下旬の発生量は平年並	±
果樹共通	カメムシ類	多い	県全域	予察灯における誘殺数は多い フェロモントラップにおける誘殺数は平年並 8月下旬のカキの被害果率はやや多い 9月の気温は高い	＋ ± ＋ ＋

・防除対策

〔ウンシュウミカン・ミカンハダニ〕

ダニエモンフロアブル、ダニコングフロアブルなどで、収穫期のほ場では収穫前日数に注意して防除しましょう。

〔ブドウ・べと病〕

早期落葉および次作の越冬伝染源量を減らすため、収穫後にICボルドー48Qなどで秋期防除を実施しましょう。また、罹病落葉が次作の第一次伝染源になるので、落葉は園外に持ち出し適切に処分しましょう。

〔果樹共通・カメムシ類〕

8月18日に「令和8年度病害虫発生予察注意報第6号（果樹カメムシ類）」を公表したところですが、引き続き新城市の予察灯で、チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシの誘殺数が多い状況です。詳細は本日発表の「果樹カメムシ類情報第3号」を参照してください。

・留意事項

ナシヒメシンクイのフェロモントラップによる誘殺数はやや多い状況です。次世代幼虫によるナシ果実への被害を防ぐため、収穫前日数に注意し、薬剤防除をしましょう。

モモせん孔細菌病が散見されています。収穫後の秋期防除を行い、越冬伝染源量を減らしましょう。

モモ、ナシでハダニ類の寄生葉率が高くなっています。また、モモのサビダニが多発しているほ場も確認されています。早期落葉を防止するため、適切に薬剤防除しましょう。

野菜

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
キャベツ	黒腐病	やや少ない	県全域	前年11月下旬の発生量はやや少ない 9月の降水量はほぼ平年並	－ ±
キャベツ ハクサイ ダイコン	コナガ	平年並	県全域	8月下旬の発生量は平年並 フェロモントラップにおける誘殺数は平年並	± ±
	ハイマダラノ メイガ	やや多い	県全域	8月下旬の発生量は平年並 9月の気温は高い	± ＋
野菜共通	ハスモンヨトウ	やや多い	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数は平年並 9月の気温は高い	± ＋
	シロイチモジ ヨトウ	やや多い	県全域	キャベツでの8月下旬の発生量は平年並 フェロモントラップにおける誘殺数は平年並 9月の気温は高い	± ± ＋
	オオタバコガ	やや多い	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数は平年並 9月の気温は高い	± ＋

・防除対策

〔キャベツ、ハクサイ、ダイコン・ハイマダラノメイガ〕

フィールドマストフロアブル、プリロッソ粒剤オメガなどで防除しましょう。

〔野菜共通・ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ、オオタバコガ〕

中齢以降の幼虫は薬剤による防除効果が低いため、若齢幼虫期に、対象作物と害虫に適用のある農薬で防除しましょう。

参考：農林水産省農薬登録情報提供システム (<https://pesticide.maff.go.jp/>)

・留意事項

アブラナ科野菜の黒腐病、軟腐病等の細菌病は、降水量が多いと発生が増加します。また、植物体の傷は病原細菌の侵入口となるので、強風雨による傷や虫の食害痕は細菌病を助長します。台風等の悪天候が予想される場合は事前に農薬を散布し、排水不良ほ場では排水対策をしましょう。

ブロッコリー、キャベツにおいて、黒すす病の発生が一部地域で問題となっています。本病は孢子により空気伝染し、病斑は下位葉から上位葉や花蕾へ広がり、一度発生が広がると防除が困難になります。育苗中は高温多湿を避け、早期発見に努めるとともに発病株は早期に処分しましょう。なお、一部系統の殺菌剤の感受性が低い菌株を確認していることから、薬剤選択は指導機関に相談しましょう。

トマトやミニトマトでは、トマト黄化葉巻病の病原ウイルスを媒介するタバココナジラミやトマト黄化病の病原ウイルスを媒介するコナジラミ類の防除を徹底しましょう。また、感染株は発見次第抜き取り、適切に処分しましょう。

イチゴでは、ハダニ類の発生が過去 10 年と比較して最も多い状況です。本日発表の「令和 8 年度病害虫発生予察注意報第 8 号」を参照してください。

花き

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
キク (露地)	白さび病	やや少ない	平坦部	8 月下旬の発生量は平年並 9 月の気温は高い 9 月の降水量はほぼ平年並	± － ±
	白さび病	やや多い	山間部	8 月下旬の発生量は多い 9 月の降水量はほぼ平年並	＋ ±
	アブラムシ類	平年並	県全域	8 月下旬の発生量は平年並	±
	ハダニ類	多い	県全域	8 月下旬の発生量は多い 9 月の気温は高い	＋ ＋
	ハスモンヨトウ	やや多い	県全域	フェロモントラップにおける 誘殺数は平年並 9 月の気温は高い	± ＋
	オオタバコガ	やや多い	県全域	フェロモントラップにおける 誘殺数は平年並 9 月の気温は高い	± ＋

・防除対策

〔キク（露地、山間部）・白さび病〕

ラリー乳剤やカナメフロアブルなどで防除しましょう。

〔キク（露地）・ハダニ類〕

サイモディスDCやスターマイトフロアブルなどで防除しましょう。なお、薬剤感受性の低下を防ぐために、同一系統の農薬を連用せず、ローテーション防除を行いましょう。

〔キク（露地）・ハスモンヨトウ、オオタバコガ〕

中齢以降の幼虫は薬剤による防除効果が低いため、若齢幼虫期に、対象作物と害虫に適用のある農薬で防除しましょう。

参考：農林水産省農薬登録情報提供システム (<https://pesticide.maff.go.jp/>)

予察灯、フェロモントラップなどの各種調査データは、ホームページ「あいち病害虫情報」(<https://www.pref.aichi.jp/site/byogaichu/investigation.html>)を参照してください。

参考

東海地方 1 か月予報（名古屋地方気象台 8 月 27 日発表）

〈特に注意を要する事項〉

今後 1 か月程度は気温の高い状態が続き、期間のはじめは気温がかなり高くなる見込みです。また、今後 2 週間程度は少雨の状態を解消するほどのまとまった雨が降る可能性は小さい見込みです。

〈予想される向こう 1 か月の天候〉

天気は数日の周期で変わるでしょう。

〈向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

〔気 温〕 低 い：10% 平年並：30% 高い：60%

〔降 水 量〕 少ない：40% 平年並：30% 多い：30%

〔日照時間〕 少ない：30% 平年並：30% 多い：40%